「何でも運送業」

○登場人物

成瀬達彦

店長

早乙女 弘

吉岡ちはる 三澤亜希子

店員 店員 アルバイト

日詰哲也(男)

強盗犯

原田結花(女)はらだゆか

強盗犯

物流会社「何でも運送業」の仕分け場。

舞台奥に段ボールが所狭しと積みあがって

いる。上手奥に、小さなテーブル。テーブ

ルの上に電話と小物入れ。達彦と弘が入っ

てくる。達彦と弘、 段ボールを仕分けし

て、下手側の二か所に積んでいく。仕分け

く。電話が鳴る。達彦、さっと電話に駆け寄り、 始める二人。達彦、 が終わると、地図を広げて、小包のあて先を調べ 住所を調べ終わり地図を置

受話器を取る。

達彦 たらまずい物だって配達します。秘密は必ず守ります びますよ。郵便局や黒猫さんに頼めない、 はい、こちら何でも運送業です。……ええ、何でも運 から安心してください。 中身が知れ

弘 段ボールを積もうとするが、手をすべらせ

て落とす。

達彦 おいっ!

弘、手を振って謝る。

達彦 体的には言えませんねえ……ええ、お待ちしてます いままでどんな物を運んできたかって? それは具

ょ。 とにしてますから。突然、段ボールの中で拳銃が暴発 しても困るんで。そういうものには「危険物」ってシ いでください。……はい、それではのちほど。 っ、拳銃っていうのは例えばの話ですから、気にしな ール貼って、慎重に取り扱うことにしてるんです。 ただ荷物の中身は、 事前にこっちで確認するこ あ

達彦、電話を切る。

弘 さいよ。拳銃運んでるなんてばれたら、警察に通報さ あんまり調子に乗って、ぺらぺらしゃべらないでくだ れて面倒なことになるでしょ。

達彦 実際、そういうものだって運んでるんだから、 いだろ。つい口がすべったんだよ。 仕方な

この前の家族全員、北海道まで運ぶっていうのは、 ことでしょ。何でも運送業が、 たちの仕事だったんですかね。 あれは夜逃げ屋のやる ただの何でも屋になっ 俺

弘

てきてるような気がするんですけど……。

仕方ないだろ、仕事として頼まれたんだから。まさ

だろ。俺たちのおかげで、うまく夜逃げできたんだ か、 運ぶんだよ、俺たちは。 から、それでよかったんだよ。生きてる人間だって 段ボールの中に人を梱包するとは誰も思わない

そこへ、下手から三澤亜紀子が入ってくる。

亜紀子 あのさ、ぐちゃぐちゃしゃべってないで仕事しなさ

いよ。あたし、もう、車出しちゃうよ。

亜紀子、俺、午前中、 荷物多いんだよ。少し応援し

弘

てもらわないと困る。

達彦 弘、 お前、さっき落とした段ボール、 中身大丈夫だ

ろうなあ?

弘 注射針ばっかりだから、大丈夫ですよ、届け先、 山

梨の山中です。

亜紀子 それ、不法投棄だね。

弘 俺は依頼人が書いた住所に荷物を運ぶだけ。

達彦やばい荷物はどんどん出せ。

亜紀子 中身知らなければ、罪悪感にさいなまれなくて済む

んだけどね。

達彦 亜紀子、もし注射針が運んでる最中に段ボールから

飛び出てきて、病気でも移ったら大変だぞ。中身は

ちゃんと教えてもらわなきゃ、おっかなくて配達で

きないよ。

亜紀子 まあ、そりゃあ、そうだけどさ。

上手から、吉岡ちはるがスーツ姿で入ってく

る。

ちはる おはようございます。

達彦おっ、おはようさん。

亜紀子 誰?

達彦 今日から、事務のアルバイトとして、何でも運送

業の仲間になってくれる吉岡ちはるちゃんです。

俺が外に出ちゃうと事務所に誰もいなくなっちゃ

うでしょ。だから、電話番とか、経理とかやって

もらおうと思ってね。彼女、 簿記の資格持ってる

んだ、適任でしょ。

ちはる 吉岡ちはるです。趣味はバレエとバイオリンで

す。ちなみにアルバイトは初めてです。ここで働

いて社会勉強させてもらおうと思ってます。よろ

しくお願いします。

亜紀子 年、いくつ?

ちはる
えっと、二十歳です。

亜紀子 二十歳でバイト初めてなの?

ちはるはい。

亜紀子 (あきれて)「はい」って……。

達彦 彼女ね、あの吉岡財閥のご令嬢さんなの。ちょっ

とピントがずれてるところがあるけど、お嬢様だ

から勘弁してあげてよ。

(冷たく)そんなお嬢さまに、うちの仕事が理解

弘

できるんですかね。

達彦 弘、 頼むよ。歓迎ムード作ってよ。仕事の内容は

ちゃんと説明してあるの。秘密も絶対厳守って伝

えてある。

亜紀子 ただ単に店長の好みで雇ったんじゃないの?

そっか。そういうことか。

弘

達彦 亜紀子、 俺は仕事とプライベートはきっちり分け

るタイプだよ。好みで雇ったわけじゃない。

亜紀子 こんな世間知らずなお嬢様を雇って、私たちの仕

事をぽろっと誰かに漏らされたら、どうするんで

すか?

達彦 ちはるちゃんは、そんなことしないよね?

ちはる はい、私は秘密はちゃんと守りますよ。

達彦
ほら。

弘
ほんとに大丈夫なのかなあ?

達彦 大丈夫だって。最近、何でも運送業の常連さんも

増えてきてきてるんだから人手が必要でしょ。

もっとほかに適任な人がいるんじゃないの?

あのさ、これ、普通の仕事じゃないんだよ。そこ

達彦

亜紀子

らへんのおばさん雇ったら、すぐに通報されて大

騒ぎになるよ。社会のモラルとかに無関心で、 ち

ょっと浮世離れしている、ちはるちゃんみたいな

子が、うちにはぴったりなの。

ちはる あの、それって、褒められてるんですか?

達彦 褒めてるんだ。 君はうちに必要な人材だ!

亜紀子 時給いくら?

達彦 五百円……。

弘 五百円!?

亜紀子 あの、法定賃金、大幅に下回ってるんですけど。

弘 元々、無法組織ではあるけれども。

達彦 だから、世間知らずでしょ。それで来てくれるん

だから、うちにはぴったりだよ。

ちはる あの、私、本当にここで働かせてもらえるんでし

ようか?

三人
よろしくお願いします!

ちはる よかったあ、じゃあ、頑張っちゃいますね。

じゃあね、そこのテーブルの席についてもらっ

達彦

て、この前、説明した通りに伝票の整理をお願い

します。あとね、電話が鳴ったら、出てね。社員

の自己紹介は配達が終わったあとで。いま時間な

いからね。

ちはるわかりました。

ちはる、伝票整理を始める。

弘 (腕時計を見て)やべっ、もう九時だ!

亜紀子 弘、あたしの車に乗せるの、どれ?

弘 てほしい。 適当に、通り掛けに行けそうな荷物、 いくつか抜い

亜紀子 すぐに出ようと思ってたのに。

ケチなこと言うなよ。俺だって、そっちの荷物が多

弘

い時は助けてるだろ。

達彦、 弘 地図を見ている。

亜紀子、下手側の段ボールを調べている。

下手から、覆面をした男と女が入ってくる。

男 おいっ!

達彦 (仕分けしながら)ちはるちゃん、 お客様だ。

ちはる、席を立って、

ちはる (警戒して)い、いらっしゃいませ……。

女 ここ、何でも運送業ですよね?

ちはる ええ、佐川さんや黒猫さんに頼めないような荷物を

引き受けてます。

男 ちょっと、車が壊れちゃってさ、金、運んでほしい

んだよ。

ちはる お金?

女 いますぐ配達してほしいの。 今、 私たち警察に追わ

れてるから。

三億二千万。

女

ちはる

あの、いくら配達すればいいんでしょうか?

達彦、 弘 亜紀子、 手を止めて男と女を見

る。

男 何だと思う? 達彦

あんたら、

何やってきたの?

弘 銀行強盗。

男 正解。

弘 正解でも、 あんまりうれしくない。

女 現金輸送車奪って、別の車にお金を乗せ換えるつも

りだったのに、その車が壊れちゃったのよ。

達彦 現金輸送車!?

亜紀子 その車、どこに停めてあるの?

男表に決まってんだろ。

達彦

弘、トラックのシートで、覆いかけてこい!

弘
あんた、この仕事引き受けるのか?

達彦
金次第だ。

弘、下手に駆け出ていく。

女 何が?

達彦

いくらだ?

達彦 報酬だよ。三億二千万円の運送代。 いくら出してく

れる?

男 5%、一千六百万円でどうだ?

達彦 ふざけんな。そんな金で引き受けられるか。どれだ

けこっちがリスク背負うと思ってんだ!

じゃあ、倍の三千二百万。それなら文句ないでし

ţ,

女

達彦 甘い。 金と一緒に二人の強盗犯も運ばなきゃいけな

いんだ。その分を上乗せしろ。

男 あんた本気で引き受けてくれんのか?

危ない橋はいくらでも渡ってきた。ちょっと警察の

達彦

ほうにもコネがあるんだ。金さえあればどうにでも

なる。

じゃあ、 思い切って5千万!!

女

達彦 それは、警視庁のお偉いさんに払い込む金だ。

もつ

と上乗せしろ。

だったらこれでどうだ?

男

男、 人差し指を立てる。

達彦 指が一本足りねえんじゃねえか?

男 一億なら十分だろ!

達彦 だったら、 現金輸送車に乗ったまま、 逃げ回れ。ど

っかで捕まるのがオチだけどな。

ちゃった時点であたしたちの運、尽きてるんだか (男に)ねえ、ここに頼むしかないよ。代車が壊れ

女

ら。

(女に)レンタカーが壊れるなんてことがあってい

男

いのか・・・・。

(男に) 大きなことをやり遂げるためには障害が付

女

きまとうものなのよ。これはきっと神様が私たちに

与えた試練よ。

亜紀子 (冷静に)試練じゃなくて、悪いことした罰だと思

うけど。

男

俺だってやりたくて銀行強盗やったわけじゃねえん

だよ。やむにやまれぬ事情があって、こんな無茶な

ことを・・・・・。

まあ、 事情はあとで聞きますよ。交渉成立しないと

達彦

きは、とっとと出て行ってもらわないと困るから

人差し指の隣についている中指を立てるのか、

立てないのか、それが問題だ。

男、達彦に向けて中指を立てる。

達彦 (ムッとして) ちはるちゃん、 警察に電話して。

ちはる はい。

男 勘違いするなよ。これから人差し指も立てるから。

達彦 中指立てて仕事頼むやつがどこにいるんだ。

女 (男に) ねえ、早くしないと、どんどん不利になっ

ていくよ。

男 わかったよ、二億だ、二億。警視庁のお偉いさんに

払い込む五千万差し引いても、取り分はあんたたち

のほうが多くなる。それなら満足だろ。

達彦 よしっ、交渉成立だ。こりゃあ、大仕事になるな。

亜紀子 ちょっと待って。あたしはそれ手伝わないからね。

達彦なんで?

亜紀子 店長、この仕事、引き受けたら、あたしたちも立派

な共犯者になるよ。 分け前まできっちりもらっちゃ

うわけだから。

達彦 運送代だよ、分け前じゃない。

亜紀子 そういうのを屁理屈(へりくつ)っていうのよ。 ع

てもじゃないけど、ついていけない。

達彦 今まで一緒に仕事して、危ない橋渡ってきて、ここ

一番の大仕事で逃げんのかよ。

亜紀子 銀行強盗なんてうまくいくわけないでしょ。うまく

いった例なんて三億円事件ぐらいしか知らないわ

ょ。

達彦 成功した例があるってことじゃないか。

ちはる あの~、銀行強盗ってやっていいことなんですか?

やっちゃいけないに決まってんだろ。そんなの常識

男

だろ。

ちはる だったらあ、すぐに警察に行って、ごめんなさいっ

て謝ってきたほうがいいと思います。間違いの一つ

や二つ誰でもありますよ。

ねえ、ここの店長、誰?

女

達彦 (自分を指さして)私です。

女 このスーツ着てる女の子、クビにしたほうがい いわ

ょ。 今の状況が全然わかってないみたいだから。

そこがいいところなんです。このちはるちゃんから

達彦

見れば、 銀行強盗なんて大した犯罪じゃないんで

す。 謝れば済むと思ってるんです。

ちはる 店長が捕まったら、 この会社潰れますよね?

達彦 潰れちゃうね。

ちはる バイトもやめなくちゃいけませんよね?

達彦 そうだね、会社がないのにバイトはできないから

ね。

ちはる だったらあ、 この仕事、引き受けないほうがいいと

思います。

達彦 でもね、うちの会社は名前の通り、何でも運送業な

んだよ。どんなものでも拒まず配送する。それが大

手にはない、うちの会社の強みなんだよ。例え、

行から盗んだお金でも、お客様に運んでくれって頼

まれたら、 引き受けるのがこの会社のやり方なん

だ。

亜紀子 (達彦を見ながら)ちはるちゃん。この人ね、 人生

踏み外す典型的なタイプだから、よく見ておくとい

いよ。こんな人間に絶対なっちゃだめ。

ちはる はい。

弘、下手から戻ってくる。

現金輸送車に、シートかけてきました。

弘

達彦 早いね、さすがプロだね。早すぎるよ。

弘 シートで覆っても、めちゃくちゃ怪しいですよ。

達子 **亜紀子、うちのトラック、横付けしておいて。道路**

のほうから怪しい車が見えないように。

亜紀子 だから、あたしは協力しないって言ってるじゃん!

達彦 上司命令だ。従わないならクビにする。

亜紀子 やってられるか、バカ!

亜紀子、早足で下手に出ていく。

店長、いいんですか、追いかけなくて。

弘

達彦 すぐに戻ってくるよ。あいつはここ以外、 正社員と

して雇ってくれるところはないんだから。

• • •

弘

男 おいっ、どうでもいいけど早くしてくれよ。

達彦
ちはるちゃん、小包ラベル出して。

ちはる はい。

ちはる、テーブルに戻る。

男 小包ラベルなんてどこに貼るんだよ。

達彦 現金の入ったジュラルミンケースに。

男

緒に俺たちと運んでくれればそれでいいんだよ。

いらねえよ、ラベルなんて貼らないでくれ。金と一

達彦 こっちは仕事として引き受けてるんだよ。あくまで

金を運ぶだけだ。だから、ラベルも貼る。

(男に)ねえ、本当にこの人たち、信用してい

女

いの?

男 大丈夫だ。前から、この運送屋にはずいぶん世話に

なってんだ。これが初めてじゃないんだ。

えっ、常連さんですか?

弘

達彦 やっぱりそうかあ。どこかで聞いたことある声だな

あって思ってたんですよ。

弘 ・・・・・あっ、 もしかして哲さん?

達彦 ああ、そうだ。その声は哲さんだ。覆面なんてして

るからわからなかった。

ばれちゃあ、 しょうがねえ。そうだよ、 山木組の日

男

詰哲也だよ。結花、覆面外せ。顔なじみだ。

日詰哲也、原田結花、覆面を外す。

哲也 よっ!

弘 うわっ、まじで哲さんだ……。

哲也 また世話になりに来たぜ、よろしくな。

達彦 **哲さん、俺たちの仲で、別に顔隠さなくてもいいじ**

ゃないですか?

哲也 正体がばれないほうがいいと思ったんだよ。

弘 なんで、哲さんが銀行強盗なんか……。

哲也 ちょっと事情があって、高跳びするカネが必要にな

ったんだ。でもそんなカネ引っ張ってくるあてもね

えしな。仕方なく銀行強盗に及んだってわけだ。

ジーカーイフカ・鈴名勇盗にアノナ・

達彦 そっちの女性は?

哲也 俺と一緒に高飛びする女だ。

哲也、結花を抱き寄せる。

亜紀子が、下手から戻ってくる。

亜紀子 (不服そうに)トラック移動させました。

達也 さすが亜紀ちゃん。 俺は信じてたよ、 お前ならやっ

てくれるって。

亜紀子 言っておきますけど、私はただ車、 移動させただけ

ですから。あとは何もしません。

達也 昔の男の依頼でも?

亜紀子 それ、どういう意味?

哲也よつ、亜紀子!

亜紀子 げっ、哲也!

哲也 お前にはすぐばれると思ったけどなあ。 けっこう鈍

感だな。またシャブやってんのか?

亜紀子 やってねえよ!

結花 ちょっと、哲ちゃん、何これ?

哲也 何って?

結花 (亜紀子を指さして)この人、 何 ?

哲也 ああ、こいつは俺の昔の彼女。 元カノってやつだ。

気にしなくていい。

結花 (亜紀子を見て)ふうん、 哲ちゃん、 こういう人と

付き合ってたんだ。

亜紀子 何よ、あんた何か文句あんの?

結花 ずいぶんガサツな感じだなあって思って。

亜紀子 悪かったわね、あんたこそ何よ。人前で肩なんか抱

かれちゃってさ。恥じらいってものがないわけ?

結花 いいじゃん。いま哲ちゃんは私は、特別な関係なわ

けだし。

亜紀子 特別でしょうね。グルになって現金輸送車襲ったわ

けだから。

結花 意味が違うでしょ!

亜紀子 それ以外のことに関心なし。 この人とはもう切れて

るの、関係は。

結花 哲ちゃん、信じていいの?

哲也 フラれたの俺のほうなんだよ。だから心配しなくて

いい。

結花 え~、 こんな女に哲ちゃんがフラれたの~、 ショッ

ク!

亜紀子 こんな女って、あんたねえ……。

弘 あのさ、 今はそんなことで揉めてる場合じゃ……。

亜紀子・結花 うるさい!

パトカーのサイレンが聞こえてくる。

全員、 退場する。

パトカーが通り過ぎていく。

哲也 おいっ、 早くしてくれ。ぼやぼやしてる場合じゃな

?

全員、 出てくる。

達彦

弘

お前、

車に積んである荷物全部抜いて、

現金積みこめ。

達彦 後回しだ。 依頼人には、あとから連絡して謝るしか

今日の配達、どうするの?

亜紀子

ない。

哲也 悪いな。 俺のせいで迷惑かけちまって。

達彦 いいんですよ。哲さんは、 今までこの何でも運送業

に割りのいいヤバイ荷物、ずいぶん回してくれたか

50 そのおかげで闇の運送業として名が知れてきた

んです。 困ったときはお互い様ですよ。

そこに

弘 亜紀子、 積みかえるの一緒に手伝ってくれ。

亜紀子 どうして私が?

達彦 荷物積みかえるだけだ。 罪にならない。

亜紀子 そうやってだんだんと、 共犯者になっていく気がす

る。

達彦
もう手遅れだよ。

亜紀子 ……。

哲也 荷物、積みかえるんだったら、 俺たちも手伝う。

達彦
よしつ、みんなでやろう。

弘、亜紀子、哲也、結花、下手に出ていく。

ちはる (席を立って) あの、 私も手伝います。

達彦
ちはるちゃん、警察に電話して。

ちはる えっ?

達彦早く!

ちはる でも、 現金運ぶんじゃないんですか?

達彦 たんだよ。早く警察が来ないかなあって。 銀行強盗なんてうまくいくわけない。 時間稼ぎして

ちはるだったら、最初に断ればいいのに。

達彦 いきなり断ったりしたら、 あの男がぶち切れて、 何

するかわからないだろ。優しそうに見えるけど、 山

木組の日詰哲也っていうのはあっちの世界じゃ、 乱

暴者で有名なんだよ。

ちはる 本当に警察に電話していいんですか?

達彦荷物積みかえてるうちに早く。

ちはる わかりました。じゃあ、電話しちゃいます。

達彦 頼むね、 俺、 頑張って時間稼ぎするから。

ちはる はい。

達彦、出て行こうとする。

ちはる受話器を取る。

結花、拳銃を構えて、下手から入ってくる。

達彦あつ・・・・・。

結花 やっぱりそういうことか。 話がうまく行き過ぎてる

と思ったのよね。

達彦

結花 ちはるちゃんだったっけ。その受話器置いて。 置か

ないと死ぬことになるわよ。

達彦
ちはるちゃん、受話器置いて。

ちはる ……はい。

ちはる、受話器を置く。

下手から哲也が戻ってくる。

哲也 おいっ、 結花。お前、何やってんだ?

結花 哲ちゃん、やっぱりこの人たち、 信用できない。 1

ま警察に電話しようとしてた。

哲也 店長、それは本当か?

達彦はい、間違いございません。

ちはる 銀行強盗なんて、うまくいくわけないと思います。

警察に行って、頭下げてきてください。

結花 黙る!

ちはる はい。

達彦 哲さん、 銀行強盗なんかして逃げ切れるわけない

よ。

哲也
だったら、
どうして引き受けるふりなんかしたん

だ ?

らだ。 うちの大切な社員を傷つけられちゃ困ると思ったか

哲也、ポケットから拳銃を出す。

じゃあ、お望み通り実力行使だ。荷物を積みかえ

ろ。車はもらっていくぞ。

哲也

達彦 哲さん、一つだけ聞かせてくれ。山木組の若頭まで

上り詰めたあんたがどうして銀行強盗を……。

哲也 そんなことお前に話してどうする?

達彦 うちに回してきたシャブ。あれ、いろんなルートに

流してたけど、山木の親分は知ってたんですか?

親分も年食ってさ、暴対法恐れて、麻薬の取引はや

哲也

めろって言ってきた。でも、俺は取引を続けてた。

その話が組に漏れて、 俺がシャブの儲けを丸呑みし

てるのがバレた。

だったら、 高飛びするくらいの金あるでしょ?

哲也 それがねえんだよなあ。 俺ってさあ、 持ってる金が

不思議とその日のうちに消えちまうんだよ。

結花 派手に遊びすぎるんだよ、哲ちゃんは。

哲也 遊ぶ時は、 徹底的に遊ばないと納得できねえんだ

よ。お前にだって、いろいろやっただろ。

結花 まあ、 マンションも買ってもらったし、 指輪や時計

もね。

達彦 もっとうまいやり方なかったんですか?

哲也 時間がなかったんだよ。組の連中が俺のことを探し

回ってる。ヤクザと警察の両方に追われてるなん

て、なかなかスリリングだろ?

弘と亜紀子が入ってくる。

亜紀子 えつ、なんなの、この状況。

哲也 店長が警察呼ぼうとした。だから、こんな状況だ。

弘 (落胆して)店長、何やってんですか……。

達彦 銀行強盗なんてうまくいくわけないだろ。

哲也 弘 積み込み続けろ。結花、お前、こいつらと一緒

に行け。俺はこっちを見張ってる。

結花わかった。

結花、弘と亜紀子に、あごで合図する。

弘、亜紀子、結花と出て行く。

電話が鳴る。

ちはる、すぐに受話器を取る。

哲也 電話を取るな。動くんじゃねえ!

ちはるでも、電話が鳴ったから。

哲也 そういうことじゃねえだろ。 場の状況考えろよ。

達彦
ちはるちゃん、受話器置いて。

ちはる はい。

ちはる、受話器を置く。

また、電話のベルが鳴る。

しばらく鳴り続けて、電話のベルが止まる。

結花が両手を上げて部屋に戻ってくる。

哲也 結花、 見張っとけって言っただろ?

結花 だって、機関銃持ってるんだもん。

哲也 誰が?

俺です。哲さん。

弘

弘、下手から機関銃を持って入ってくる。

哲也 なんで運送屋が機関銃持ってんだよ!

弘 今日の午前中に中国マフィアに届けることになって

いた超危険物です。

哲也 弘、 お前、 兄弟の俺に機関銃向けるのか?

俺があんたの舎弟だったのは、 昔の話です。

おいっ、 弘、よく考えろ。 俺が警察に捕まったら、

哲也

弘

お前らがやってたことも全部、 バレるんだぞ。そし

たらお前らも全員、豚箱行きだ。それでもいいの

か?

達彦
ばれてもいいんです。

達彦 哲也 どういう意味だ? 日詰哲也、 強盗および銃刀法違反で逮捕する。

哲也 犬の真似なんかするんじゃねえ。 何考えてんだ?

達彦
真似じゃなくて、俺は本物の犬だ。

達彦、ズボンのぽ家とからゆっくりと警察手

帳を出して、哲也に見せる。

哲也 おいっ、 店長。あんた一体、 何者だ?

達彦 東京警視庁特捜部第9課、 密輸密売捜査官、 成瀬達

彦だ。

哲也 おいっ、犬が密売の手助けしてどうするんだよ。

あんたのおかげで、麻薬の密売ルートは、ほぼすべ

達彦

て把握した。三日後には一斉検挙だ。今は拳銃の密

売ルートを探ってる。だから機関銃も箱から出てく

るってわけだ。

哲也 じゃあ、 お前、 最初から俺をはめてたのか?

達彦 霞が関の警視総監殿が、 闇の流通ルートを探るに

は、 そのルートに潜り込むのが一番手っ取り早いと

考え着いて国民の皆様の税金でかなり強引にぶっ建

てた会社が、この何でも運送業だ。

哲也 刑事が、 元シャブ中女とヤクザ上がりを雇ってんの

か?

達彦 二人とも裏社会の事情には精通してた。だから、 社

員として雇うにはうってつけだった。

哲也にスポット。

ヘリコプターの音が響く。

(- 7) ***

この男だけは、撃ち殺してから豚箱へ行く!

哲ちゃん、もう無理だよ、あきらめよう。

結花

哲也

達彦

応援が来たみたいだ。日詰、

拳銃を捨てろ。

亜紀子が拳銃を持って入ってくる。

亜紀子 哲也、もうやめなよ。

哲也 亜紀子、 お前が警察に通報したのか?

亜紀子 そうよ。

哲也
余計なことしやがって。

亜紀子 刑事撃ったら、二度と刑務所から出れなくなるわ

ょ。

哲也 お前もこいつが刑事だって知ってたんだな。 知って

て俺をはめたんだな。

亜紀子 麻薬の取引をやめてほしかったの。シャブ中になっ

て私みたいに人生おかしくなっちゃう人がたくさん

いるから。

哲也
賢くなったな、お前も。

亜紀子 哲也、あんたもバカじゃないでしょ。拳銃下ろしな

さい。不幸になる女がまた一人増えるから。

哲也、結花を見て、

・・・・くそっ。

哲也

哲也、拳銃を下ろす。

達彦 刑務所で更生して、まっとうな人間になってシャバ

に戻ってきてください。

哲也 お前の運送屋のほうが、よっぽどまともじゃねえだ

ろ!

達彦

弘、表まで二人を送ってやれ。強盗犯を刑務所に送

り届けるのも、何でも運送業の仕事だ。

電話が鳴る。

ちはる、すぐに受話器を取る。

(明るく)はい、こちら、何でも運送業です!

ちはる

幕